



法輪寺「小栗上野介忠順」説明看板新設

館林市教育部文化振興課では、館林市朝日町にある「法輪寺」に、来年のNHK大河ドラマ“逆賊の幕臣”の主人公である「小栗上野介忠順」説明看板を新設しました。

来年のNHK大河ドラマ“逆賊の幕臣”=小栗上野介

■小栗上野介忠順は、日本初の遣米使節目付として海を渡り、外国奉行・軍艦奉行・陸軍奉行などを歴任し司馬遼太郎に「明治の設計図を書いた男」といわしめた人物です。


小栗上野介と館林のつながり

■明治維新のなかで新政府軍により処刑され、その首級は当時総督府の本営が置かれていた館林に送られ、法輪寺に葬られました。1年後に小栗の知行地である群馬郡権田村(現在の高崎市)の村役人が首級を持ち帰り、同村の東善寺の裏山に埋葬したとされます。


この首の奪還には、館林の住民らが協力し、また取り調べにおいても地元のひとびとが“盗掘”に同情し、罪に問わなかったといわれています。



小栗上野介ゆかりの法輪寺



小栗上野介忠順
(東善寺前住職 村上尚賢製)



転龍山 法輪寺

小栗上野介忠順 (一八二七～一八六八)

小栗上野介忠順は二五〇〇石の旗本で、文政一〇年(一八二七)に生まれました。安政二年(一八五五)に家督を相続し、万延元年(一八六〇)の遣米使節目付として日米修好通商条約の批准に尽力しました。

帰国後に外国奉行や軍艦奉行、陸軍奉行を歴任し、慶応元年(一八六五)に四度目の勅定奉行に就任、同三年からは陸軍奉行を兼務しました。この間、横須賀製鉄所(造船所)建設やフランス式陸軍制度の導入など、欧米の技術を導入して日本の近代化に多大な貢献をしました。

明治元年(一八六八)正月の鳥羽・伏見の戦いに敗れ、新政府軍に恭順するか、徹底抗戦するかで意見が割れる幕府内で徹底抗戦を主張し、同月に役職を罷免され、知行地であった群馬郡権田村(高崎市)に隠棲しました。しかし、総督府から取り調べもないまま逮捕され、明治元年(一八六八)閏四月に養嗣子忠道とともに父子主従八名が斬首に処されました。(享年四一)

そして父子の首級は、総督府の本営が置かれた館林に送られ、総督府倉庫長の首実検を受け、法輪寺に葬られました。権田村の村役人中島三左衛門(のち菅田三平次)らは、父子を供養することを期し、首級の奪還を企て、一周忌にあたる明治二年四月六日に、法輪寺境内に忍び込み首級を掘り出しました。忠順の首級は、権田村に持ち帰られ、同村東善寺の裏山に埋葬されました。

令和七年度 館林市教育委員会

【参考】

■今回、「小栗上野介忠順」説明看板を新設した法輪寺では、檀家世話人会の皆様により「法輪寺ゆかりの人物(全16名)」説明看板も設置されました。

担当

館林市教育部 (教育委員会事務局)
文化振興課 文化財係
〒374-0018 群馬県館林市城町3-1
電話：0276-74-4111
FAX：0276-74-4113
メール：bunka@city.tatebayashi.gunma.jp
Xアカウント：@tatebayashi_mus